



認知症サポーター養成講座
『認知症ってな〜んだ?!』



現在、日本では少子高齢化が進んでおり、高齢化とともに認知症になる人が増加しています。その数は2025年に700万人を突破し、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われています。皆さんは「認知症になっても住み慣れた地域で生活したい」とは思いませんか?そのような希望を叶えるべく、厚生労働省は認知症の人々も安心して地域で暮らせるように、認知症の正しい理解を持ってできる範囲で手助けする人々、「認知症サポーター」を全国で5000万人を養成することを目指しています。また、尼崎市も積極的に認知症サポーター養成講座を行っています。その一つとして、今回は杭瀬小学校6年生と5年生の希望者を対象に、小田南地域包括支援センターと一緒に講座を開催しました。

今回の講座では、①認知症高齢者についての「正しい知識」と「イメージ」②認知症高齢者を地域全体で見守るために、子どもたちにもその一端を担ってもらえるような「意識づけ」③受講した子

どもからその保護者へ、認知症高齢者への理解を広める“波及効果”を目標に行いました。

参加してくれた小学生達はとても熱心で、「物忘れと記憶障害の違い」「脳のメカニズム」の説明にも「へー」「そうなんや!」などの反応があったり、時には手をあげて積極的に質問に答えてくれたりしました。また、実際に認知症高齢者と出会ったらどのように声かけをしたら良いか、ロールプレイングもしてもらいました。ゆっくりとした声で、驚かすことなく、最後には行きたい場所へ案内するという好プレーを見せてくれました。

彼らがこれから大きくなって、杭瀬のまちがもっと住みやすい町になってくれたら嬉しいな、いやきっとそうなると期待が膨らむ講座でした。

人間健康学部 人間看護学科 宮田さおり

No.1
2016.Nov



〈地域〉と〈大学〉をつなぐ
経験値教育プログラム



Newsletter

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1
TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523
E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学

平成28年度 3大学合同報告会「プラットフォーム」

2016年10月15日(土)、本学3号館321教室(AVホール)において、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+「子育て高齢化対策」領域シンポジウムが開催されました。これは、神戸大学を主幹とするCOC+事業「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」の一環として企画されたものです。兵庫県は少子高齢化に伴う人口減少が加速しており、地域での子育て支援や高齢化対策が急務です。そのため、兵庫県内で医療福祉専門職養成課程を有する神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学の3大学が連携し、各大学が培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果・知見を持ち寄り、情報共有を図るといった目的でシンポジウムを開催しました。

まず、川島明子氏(園田学園女子大学・同短期大学部学長)、高田哲氏(神戸大学院保健学研究科地域保健学領域教授・地域連携推進センター長)による開会挨拶がありました。そして、第1部シンポジウム「みんなで考える少子高齢化社会」では、3大学それぞれが、各大学での取り組みを踏まえて少子高齢化社会の現状や子育て支援・高齢化対策の実際について解説し、座長の野呂千鶴子氏(本学人間健康学部教授)の司会のもと議論を行いました。各登壇者の演題は次の通りです。高田哲氏「少子化と子育て支援」、相原洋子氏(神戸市看護大学地域連携教育・研究センター准教授)「高齢化と地域コミュニティ」、大江篤氏(本学人間教育学部教授・地域連携推進機構副機構長)「地域資源としてのひ

と・もの・ことー記憶とまちづくりー」。総合討論では、参加された各大学の関係者や学生、地域の方をふくめた活発な議論が展開されました。その後、3号館1階ラーニングコモンズに移動し、各大学の取り組みを紹介したポスター掲示をまえに、情報交換会が行われました。

続いて各大学の学生による成果報告が行われました。座長の林敦子氏(神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域准教授)のもと各大学における取り組みの紹介と、活動を通して得られたことについて、それぞれ報告されました。各報告は以下のとおりです。本学人間教育学部3年生(7名)「子どもの生活体験と子育て支援ー子育てサークル“やんちゃんこ”の取り組みー」、本学人間健康学部4年生(2名)「尼崎市立杭瀬小学校における認知症サポーター養成講座の試み」、神戸市看護大学1年生(4名)「神戸市看護大学ボランティア部の取り組み」、神戸大学医学部保健学科学療法学専攻4年生・松田直佳氏「地域高齢者への取り組みー高齢者の運転に焦点を置いてー」、神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域修士1年生・鈴木千晶氏「発達支援教室“ぼっとらっく”の取り組み」。

最後に、石原逸子氏(神戸市看護大学基礎看護学領域教授)から閉会挨拶があり、すべてのプログラムが終了しました。当日は101名の参加者を得て、盛会のうちに終了しました。

つながるパラダイス2

～食べて、笑って、つながって、女子力up!!～

2016年12月17日(土)

10:30～16:00

場所：尼崎市女性センター・トレピエ(学習室2,3)

対象：大人の女性

持ち物：おやつ(500円までで、6人くらいで分けられるもの。)

ランチ代1000円(お弁当などの持参可能)

つなGirl連絡先：sonodachiiki@gmail.com

主催：園田学園女子大学学生地域連携推進委員会 協力：尼崎市女性センター・トレピエ

※要申し込み(12/7締切)

必要事項を記入の上、メールまたは郵送

- ①氏名、ふりがな、ニックネーム
- ②連絡先(自宅または携帯電話)
- ③干支(年代でも可能)



スケジュール

- 10:00 受付
- 10:30 開始、自己紹介 / 自撮り講座
- 12:00 ランチ&女子会 / 写真デコタイム
- 15:00 手形アート / 記念写真配布
- 16:00 終了

地域志向科目「つながりプロジェクト⑨」 『学校と地域で創るからだと心の健康』

この授業、「学校保健と地域とのつながり」を、学校の取組や地域で行われている健康を支える取組を通して学ぶ科目です。

1学期前半は、「健康」に関連する内容で5回、講義形式で学びました。

1学期後半～現在、尼崎市内の小学校2校（尼崎市立立花西小学校・尼崎市立上坂部小学校）と1施設（尼崎市立地域総合センター「神崎」）をフィールドに、3つのグループに分かれて、様々な健康課題や課題解決のための取組を通して、「学校保健と地域とのつながり」を学んでいます。

尼崎市立立花西小学校では、健康診断（身体測定・足型測定等）、授業（体育科）等に参加させていただきました。活動を通して、発達段階に応じたコミュニケーションの重要性、健康課題把握の実際を学ぶことができました。特に、足型測定では、今の子どもたちは外で遊ぶ習慣が少ないために、足の形が変化してきて転びやすい等の現状を具体的に知ることができました。

尼崎市立上坂部小学校では、特別支援学級や通常学級での活動支援、掲示物作成を通じた保健教育の実際等を学ぶことができました。特別支援学級等での活動支援は6月や9月に集中的に行ったため、1日の流れを通じた子どもたちの様子や先生方の関わりを観察し、学ぶことができました。特別支援学級の子どもたちとの関わりは難しく、言葉かけやコミュニケーションに悩みながらも、子どもたちが心を開いてくれた時の嬉しさは格別です。また、普通学級の子どもたちが特別支援学級の子どもたちを助けながら授業を行っている風景を目の当たりにして、上坂部小学校の教育目標を達成されていることに感銘を受けました。（教育目標は「ほほえみ つながり かがやき」）

尼崎市立地域総合センター「神崎」では、毎週月曜日と木曜日の午後に、近隣中学校生徒の放課後の居場所として「スマイル★カフェ」を開催しています。グループメンバーは、木曜日の午後に2名～3名ずつ交替で担当しています。また、夏休みにはイベントにも参加しました。「スマイル★カフェ」では、毎回、おやつと飲み物を用意して、来室した子どもたち（中学生）の対応を、担当者の方と一緒にしています。そして、毎回90分の活動終了後、担当者の方と簡単な振り返りを行っています。思春期真っ只中の中学生とのコミュニケーションには、最初、戸惑い苦慮しました。しかし、担当者の方の関わりを観察したり、トランプゲームやたこ焼きパーティーなどの活動を子どもたちと一緒にする中で、こちらから声をかけていくことや、話をしっかり聞いて安心感を与えることで、信頼関係を築けることに気づきました。

「神崎」では「大学生企画 わくわく健康クイズ～楽しく知ろう！健康豆知識！～」というテーマで夏休みのイベントを行いました。集まった子どもたちは、幼児～小学校高学年まで幅広く、発達段階に応じたコミュニケーションや集団への指示の仕方など課題は残りましたが、事前に内容や教材の工夫など積極的に取り組み、やりがいも感じることができました。

以上の様な3つのグループの活動報告を9月29日に行いました。他のグループの活動や学びを共有する中で、自分（たち）の足りないところや今後の課題を明らかにすることができました。

つながりプロジェクト ⑨

担当：江崎和子・藤澤政美・
近藤照敏・磯田宏子・角田智恵美・林 淑美



地域志向科目「つながりプロジェクト⑫」 『まちづくり企画実践演習』



この授業では、尼崎の郷土野菜「尼いも」を活用した企画づくりに取り組みました。尼いもとは、尼崎の臨海部で栽培されていたサツマイモです。1905年ごろには作付面積約210ヘクタール、収穫量約2,360トンで最盛期を迎えましたが、度重なる水害や工業化の影響で衰退し、1950年ごろ絶滅したとされています。市民団体「尼いもクラブ」が茨城県の研究施設から取り寄せた苗で試験栽培をおこない、2003年に復活宣言をおこなって以降、市内の学校や幼稚園などで教材として活用されているほか、近年は焼酎や茎の佃煮の生産など、新たな商品開発を通して発信されています。

授業では、学生たちに目的意識を持って取り組んでもらおうと、尼崎貴布禰神社で毎年10月に開催している「尼芋奉納祭」への出展を課しました。奉納祭自体が地域の新しいまつりを指向していることから、対象を地域の子どものみに定め、3～4名のグループごとに企画立案してもらいました。予備学習の機会として、NPO法人尼崎21世紀の森が主催するイベント「うんぱく」の見学や、奉納祭運営メンバーとの面談を通して関わる人たちの思いや運営面の工夫など、一定の情報を蓄積したうえで掘りや出展準備に取り組みました。最終的に出展内容は、どら焼きとスイートポテトの製造販売、プラ板キーホルダーづくりのワークショップ、焼いもの配布となりました。尼芋奉納神事の司会を受講生が担当したほか、本学の学生地域連携推進委員会も出展し、キャラクターの名称を募集しました。

尼いもについて学び、自分たちで掘り、加工して売るという一連の企画と実践のサイクルを経験した学生からは「作ったものが売れていくのが嬉しかった」「ターゲットを想定しながらの企画づくりが商品開発の就職への参考になった」という意見が寄せられ、地域の方々と取り組んだ手ごたえを感じているようです。

つながりプロジェクト ⑫

担当：尼崎南部再生研究所 綱本武雄

地域志向科目「つながりプロジェクト⑭」 『おもしろきこともなき世をおもしろく』

この授業は、「あまがさき環境オープンカレッジAOC E」と「大庄おもしろ広場」という2つのフィールドで、「楽しく生きていくため」の要素を学科を超えて交流しながら常に新しい3人の組み合わせで話し合い、自分の体験を交えながら考察していきます。

AOC Eでは環境を通して環境基本計画に基づいた6つの視点（つながり楽・しごと楽・リサイクル楽・いきもの楽・くらし楽・地球楽）から考えることになり、AOC Eのオープンスペースでの実習ではゲストスピーカーとして環境ボランティア活動をしている女性に会った際は女性としてボランティアの動機や苦労などの質問をして、聞き入っていました。また、ゴミ拾い楽しくするトングマンと称する男性に対しては今まで出会った事が無いような戸惑いを感じていたようでした。

後半の授業フィールドは学校から遠いので3時間分を使った集中実習になりました。集合に手間取りましたが初めての野外実習で木陰での実習はヤギたちの出迎えもあり、新鮮だったようです。前半は前期授業のまとめを行い、後半は後期の授業の題材となる広場の「楽しい・コストをかけない・リスクと向き合う」さまざまなしくみを見学・体験しました。また、広場のゲストとして20歳代の市職員と対話をしたときには差し入れのアイスをいただきながら年齢が近いためか不思議な緊張感が漂っていたようです。

この授業を通じて「環境」と「楽しく生きる」という視点から自分の生き方について考えるきっかけになってくれればいいな、と思っています。

つながりプロジェクト ⑭

担当：NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 大原一憲

